

(1) 総持学園

関東大震災翌年の1924（大正13）、曹洞宗大本山總持寺を開いた瑩山禪師の600回大遠忌を記念し、光華女学校（現・鶴見大学附属中学・高等学校）として発足した。2024年に創立100周年を迎えた。鶴見大学は1953年、鶴見女子短期大学としてスタート。63年に鶴見女子大学となり、70年に歯学部設置。73年、歯学部の男女共学化を受けて鶴見大学に名称を変更した。

(2) 共用試験

臨床実習を行う上で必要となる歯学や歯科治療に関する知識、技術、コミュニケーション能力、態度を評価するための試験。歯科医師育成に携わる全国の歯学部が試験問題を作成し、共有して実施している。臨床実習開始前に習得すべき知識をCBT（Computer Based Testing）で、態度・技能をOSCE（Objective Structured Clinical Examination）で評価する。2024年から「公的化」が図られ、歯科医師法で定めた公的試験となった。そのためこれまで試験の合否判定は各大学に委ねられていたが、統一合格基準となる。

鶴見大学では、全身に関わる医学領域も学びます。これは、歯科医師に全身管理の知識が求められている

超高齢社会で注目の歯科医師活躍の場は多岐にわたる

鶴見大学では、全身に関わる医学領域も学びます。これは、歯科医師に全身管理の知識が求められている

オンライン面接で来学不要なうえ、



を歩き始めてほしいです」と山本学部長はエールを送っています。

Information

鶴見大学歯学部は
学ぶ意欲の高い受験生を応援します。

新入生特待奨学生制度

【一般選抜（個別選抜型）1期】

○奨学制度内容

初年度学納金350万円免除	成績上位者1位～3位 (200点満点中160点以上)
初年度学納金200万円免除	成績上位者4位～10位 (200点満点中150点以上)

○新入生特待奨学生チャレンジ制度

12月までに実施される入試（指定校・総合型など）に合格して入学手続きを完了し、特待生選抜試験＜一般選抜（個別選抜型）1期＞に申請するとチャレンジできます

【共通テスト利用型】

初年度学納金200万円免除	成績上位者1位～5位 (300点満点中200点以上)
---------------	-------------------------------

【2年次編入学特待生選抜試験】

編入学試験1期・2期で合格して入学手続きを完了し、編入学特待奨学生選抜試験に申請するとチャレンジできます

初年度学納金100万円免除	成績上位者1位～3位 (200点満点中160点以上)
---------------	-------------------------------

在学生の奨学金制度も充実

2年次～6年次を対象に、前年度の成績により学納金一部免除

臨床実習と並行して、座学や人体模型でのシミュレーション実習も実施。顎の腫瘍手術など、難易度の高い外科手術は、先生方の高度な手術の見学を通して学修します。また、放射線科でのエックス線画像診断実習など、歯科医師に必要な技能も磨きます。

検査結果から実際の治療、結果などを資料にまとめ、グループ内で発表する「症例報告会」を実施。指導教員の総括を受けます。1年間での自分の成長を自覚することができる貴重な機会となっています。

国家試験合格のためのメンソッド
短期集中型カリキュラムを導入

さらに、臨床実習の後半では、学生が担当した患者の症例について、



やまもとたかつく
山本雄嗣歯学部長

1993年鶴見大学大学院歯学研究科博士課程修了。博士（歯学）。専門は保存治療系歯学。2012年鶴見大学歯学部准教授、2018年同大教授。25年4月より現職。

横浜市鶴見区にある鶴見大学は、曹洞宗の大本山總持寺を母体とする学校法人総持学園⁽¹⁾によって1953年に開設され、歯学部は1970年に設置されました。鎌倉時代に曹洞宗を開いた道元禪師とともに、教えを全国に広めた瑩山禪師は、女人救済に重きを置いたとされ、より多くの人々の救済を目指す思いは「大覚円成 報恩行持」という鶴見大学の建学の精神として受け継がれています。

一方で横浜市は、幕末の米国人歯科医師イーストレーキが、日本人に歯科技術を広めたことから、近代西洋歯科医学の“発祥の地”と呼ばれてきました。

禅という仏教の教えに、近代西洋歯科医学の土壌が融合した鶴見大学歯学部。その特色は「臨床の鶴見」と呼ばれています。患者に寄り添う優れた歯科医師の養成について、山本雄嗣歯学部長に語っていただきました。

鶴見大学歯学部

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3 入試センター事務室 TEL 045-580-8219 <https://www.tsurumi-u.ac.jp/>

歯科医師に必要な心を養う
「臨床の鶴見」の教育の原点

1970年の歯学部設置以来、半世紀以上にわたり6000人近い歯科医師を輩出してきた鶴見大学歯学部は、歯科医療に対する貢献度や診療実績から「臨床の鶴見」と称されてきました。そうした評価の背景には、仏教系大学としての建学の精神である「感謝のこころ」をよりどころとした、患者に寄り添う歯科医師の養成という教育理念があります。

「臨床が優れていると聞くと、歯科医師としての技術の高さや豊富な診療経験、あるいは最新の治療機器や設備が整っているを思い浮かべるかもしれませんが、それらも重要ですが、臨床とは『人を相手にする仕事』である以上、何よりも患者の心に寄り添う姿勢こそが重要なのです。AI時代だからこそ求められる、人とのコミュニケーションを大切に、歯科医師以前に人として患者と接する心をこそ学生に教えたい。そこに教育の原点があります」と、同大の卒業生でもあり、今春歯学部長に就

任した山本雄嗣教授は説明します。

敬愛の精神をもつて人々の健康を支える歯科医師の養成を重視する鶴見大学では、人を尊ぶ精神を体現する取り組みが進められており、例えば鶴見大学歯学部附属病院では、さまざまな事情で日本にきた難民の歯科診療を無償で行っています。難民申請中は保険適用外だからこそ、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）などと連携して治療に当たっています。

1年次の学生の教育を重視
禅の教えで学ぶ感謝と報恩

歯学部の新入生は、入学して間もない5月に、大学の母体である大本山總持寺で行われる「新入生本山参禅会」において坐禅を体験します。坐禅や法話を通して自己を見つめると同時に、感謝の気持ちや敬愛の精神を学びます。こうした行事は、仏教系大学である鶴見大学ならではのユニークな取り組みの一つです。

学修サポート面では、1年次から4～5名の学生に対して教員1名が担当し、勉強方法や苦手分野の克服法をアドバイスしながら効率的な知識と能力の定着を図る「担任・チューター制」を導入。授業の合間には、教員が学修面での相談に応じる「オフィスアワー」も設けています。

2年次になると、他大学の歯学部と同様に人体解剖学実習も行います。鶴見大学の特徴は、大規模な慰霊行事である「解剖献体精霊供養法会」を行い、解剖に関わる全学生が参加す

5年次の診療参加型臨床実習は
歯科医師になるための第一歩

歯学教育では、4年次までは講義やマネキンを用いた実習形式での学修が中心となりますが、5年次からは診療参加型臨床実習が歯学部の附属病院で本格的に始まります。全国共通の基準で評価される共用試験に合格した上で、学生自身が患者一人ひとりの担当医となり、治療計画の立案から検査、診療までを担います。

「診療参加型を謳う歯学部は多いですが、基本的には患者の担当歯科医師が患者の承諾を得ながら、学生に全て細かく指示を出し、それに従って一部学生が治療をさせていた」というのがほとんどです。本学の場合は、患者の担当医師はあくまでも学生であり、学生自らが患者の医療面接をし、診療の説明をした上で治療を始めます。もちろん、指導教員はその様子を傍で注視し、監督しますが、実際に治療を進めるのはあくまでも学生自身です。こうした臨床実習を乗り越えて初めて、「臨床の鶴見」につながるのだと考えています」（山本学部長）

